

## 令和5年度三重大学国際交流事業実施報告書（学内版）

1. 申請部局

学部・研究科名等： 人文学部

事業担当者の職・氏名： 教授・綾野 誠紀

内線電話番号： 9129

電子メール： ayano@human.mie-u.ac.jp

2. 事業の名称（20字以内，別に副題を付けても良い）

タイフィールドスタディー

3. 事業内容の別（該当するところにチェックを入れてください。）

教職員，学生の海外派遣（学会やシンポジウム等の出席は除く）

海外交流機関等からの教職員，学生の受け入れ

国際教育プログラムの開発や推進

その他

#### 4. 事業の取組結果

##### (1) 事業概要

タイの国際 NGO での研修や現地学生との交流を通して、タイの現状と、そこから見てくる日本を含む先進国の姿を知ることにより、各種メディアや文献だけでは知ることができないタイを含む東南アジアへの理解を深めることを目標として、以下の内容の研修を行った。

以下の2点を今回のタイフィールドスタディーの目標とした。

1. 国際協力型と政策提言型 NGO が取り組んでいる課題に基づき、タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に、日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

現地でのフィールドスタディーに先駆けて、計2回の事前研修を行った。事前研修は NGO 法人メコン・ウォッチ理事 土井利幸氏が担当した。また、現地での活動を円滑に行うために打ち合わせを2回行い、詳細な研修用のマニュアルを参加学生が作成した。2回目の打ち合わせでは、渡航前の最終的な確認を行った。

- a. 事前研修：
  - ・ 第1回 2023年12月6日 12:10-13:40  
「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」
  - ・ 第2回 2024年1月25日 13:00-14:30  
「タイの市民社会：NGOの役割」
- b. 打ち合わせ：
  - ・ 第1回 2023年11月22日 12:10-12:50
  - ・ 第2回 2024年2月5日 14:30-16:00

フィールドスタディーは以下の内容と日程で実施した。

- c. 研修内容及び日程：
  - 2月16日（金）中部国際空港→スワンナプーム空港
  - 2月17日（土）クレット島研修（ノンタブリー県パーククレット郡）
  - 2月18日（日）NGOでの研修（貧困高齢者問題：for Oldy、バンコク市内サトーン地区）
  - 2月19日（月）国際NGOでの研修（貧困問題：シーカアジア財団、バンコク市クロントーイ地区）
  - 2月20日（火）班別探究活動（バンコク市内）
  - 2月21日（水）協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）
  - 2月22日（木）午前：バンコク国連事務所での研修（ビジネスと人権）  
午後：バンコク市内研修（タイの歴史）

2月23日（金）班別自由活動、振り返り（バンコク市内）

2月24日（土）スワンナプーム空港→関西国際空港

（2）事業の背景・これまでの実績

2019年3月に初めてタイフィールドスタディーが実施された。コロナ禍後、第2回のタイフィールドスタディーを2023年3月に実施し、今回が3回目である。

（3）事業実施結果

合計5名の人文学部学生の参加があった。内訳は文化学科2年生3名、文化学科4年生1名、法律経済学科2年生1名である。それぞれ目標を設定し、事前学習をすることにより効果的な研修であった。以下のような振り返りがあった。

- ・タイフィールドスタディで得た、知識だけでなく五感で感じることによる経験は、私自身に深く刻みこまれ、今後の人生において迷ったとき、私を導いてくれるだろう。
- ・今回のタイフィールドスタディを通して、目標であった「新たな価値観を手に入れること」が達成できたように思う。9日間の研修で様々な「はじめて」を経験して、確実に自分の世界が広がった。そのように成長できたからこそ、このまま終わってはいけないとも感じる。この経験をこれからの自分の価値観形成につなげていくことで、より意義のあった研修となる。
- ・この研修で、自分一人では絶対にできないような貴重な体験をすることができ、生きる力になりました。
- ・（バンコクの貧困地区の）住民の間には強い信頼関係があり、何かあっても助け合うことができるというセーフティーネットを持っている。（日本でも）今一度地域との関わり方を見直す必要があると強く感じた。
- ・自ら意思疎通を図り、会話のキャッチボールをしていく中で、国際協力というものは意外にシンプルなもので、相手を受け入れて会話を試みるのが最も重要であり、そこから始まるのではないかと考えさせられた。



バンコククロントイ地区（スラム）



バンコククロントイ地区（シーカ財団 絵本図書室）



タイ史の講義担当のピヤワン准教授（タマサート大学）



タマサート大学の学生との交流



スラム住民訪問（バンコク市内サトーン地区）



住民との交流（バンコク市内サトーン地区）



国連開発計画、佐藤暁子リエゾンオフィサーによる講義



バンコク国連事務所

#### （４）事業の意義

- ・ 2年連続でタイフィールドスタディを実施することにより、今後の学生対象の国際交流のあり方を検討するにあたって、特に、企画・実施面において大いに参考になった。
- ・ NGOが取り組んでいる課題や現地の関係者とのやりとりを通して、タイやその周辺国について深く理解できたばかりではなく、異なった視点から、日本を含む先進国、また、自分自身を見ることができるようになったと参加者が振り返りをしている。

#### （５）事業の発展性

- ・ 昨年同様、タマサート大学教養学部のピヤワン准教授の協力を得て、学生向けの講義と学生交流を実施することができた。同大学と三重大学は、長い交流実績があり、さらなる交流をしたいとの強い要望がある。同大学の協力を

得て、さらなる交流の発展が期待できる。

(6) 中期目標・中期計画における位置づけ

(8)-1-⑥-4 及び(9)-1-⑥-2

令和 5 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：日本語版）

タイフィールドスタディー

[A] フィールドスタディーの目標

1. 国際協力型と政策提言型 NGO が取り組んでいる課題に基づき、タイ及び東南アジアの周辺国について理解を深めると同時に、日本を含む先進国がどのような立場にあるのかを理解できるようになる。
2. タイの協定校であるタマサート大学の学生との交流を行う。

[B] タイフィールドスタディーの参加者

1. 綾野 誠紀（リーダー、人文学部・教授）
2. 土井 利幸（ガイド・通訳、NGO 法人メコンウォッチ理事）
3. 人文学部 学部生 5 名

[C] スケジュール

1. 事前研修（講師 土井 利幸 NGO 法人メコンウォッチ理事）

第 1 回 2023 年 12 月 6 日 12:10-13:40

「空間と時間の中のタイ：地政と歴史」

第 2 回 2024 年 1 月 25 日 13:00-14:30

「タイの市民社会：NGO の役割」

2. フィールドスタディ

2 月 16 日（金）中部国際空港→スワンナプーム空港

2 月 17 日（土）クレット島研修（ノンタブリー県パーククレット郡）

2 月 18 日（日）NGO での研修（貧困高齢者問題：for Oldy、バンコク市内サトーン地区）

2 月 19 日（月）国際 NGO での研修（貧困問題：シーカアジア財団、バンコク市クローントイ地区）

2 月 20 日（火）班別探究活動（バンコク市内）

2 月 21 日（水）協定校での研修（タマサート大学ランシットキャンパス）

2 月 22 日（木）午前：バンコク国連事務所での研修（ビジネスと人権）

午後：バンコク市内研修（タイの歴史）

2 月 23 日（金）班別自由活動、振り返り（バンコク市内）

2 月 24 日（土）スワンナプーム空港→関西国際空港

[D] 参加者による振り返り

- ・タイフィールドスタディで得た、知識だけでなく五感で感じることによる経験は、私自身に深く刻みこまれ、今後の人生において迷ったとき、私を導いてくれるだろう。
- ・今回のタイフィールドスタディを通して、目標であった「新たな価値観を手

に入れること」が達成できたように思う。9日間の研修で様々な「はじめて」を経験して、確実に自分の世界が広がった。そのように成長できたからこそ、このまま終わってはいけないとも感じる。この経験をこれからの自分の価値観形成につなげていくことで、より意義のあった研修となる。

- ・この研修で、自分一人では絶対にできないような貴重な体験をすることができ、生きる力になりました。
- ・（バンコクの貧困地区の）住民の間には強い信頼関係があり、何かあっても助け合うことができるというセーフティーネットを持っている。（日本でも）今一度地域との関わり方を見直す必要性があると強く感じた。
- ・自ら意思疎通を図り、会話のキャッチボールをしていく中で、国際協力というものは意外にシンプルなもので、相手を受け入れて会話を試みることが最も重要であり、そこから始まるのではないかと考えさせられた。
- ・タイ独自の文化や歴史について学ぶことができた。



クローンタイ地区（バンコク最大規模スラム）スラム地区住民宅への訪問（バンコクサトーン地区）



タマサート大学の学生との交流



バンコク国連事務所

## 令和 5 年度三重大学国際交流事業実施報告書（一般公開：英語版）

### Thai Field Study

#### [A] Aims of this field study:

1. To understand Thailand and the surrounding areas in South East Asia from the perspectives of two types of NGOs: operational and advocacy NGOs.
2. To understand where Japan and other developed nations stand through understanding issues related to NGO activities in Thailand and the surrounding areas.
3. To engage in activities with students at Thammasat University, one of our partner universities in Thailand.

#### [B] Field study leader, guide & interpreter, and participants:

1. Seiki Ayano: Leader (Professor, Faculty of Humanities, Law and Economics)
2. Toshiyuki Doi: Guide and interpreter (Director, Mekong Watch)
3. 5 undergraduate students in the Faculty of Humanities, Law and Economics

#### [C] Schedule:

1. Pre-field-study workshop (conducted by Toshiyuki Doi)
  - (i) December 6, 2023 (Thailand in space and time: Its geopolitics and history)
  - (ii) January 25, 2024 (NGO roles in the Thai society)
2. Field study schedule

February 16: Orientation session (after arrival in Bangkok)

February 17: Ethnic and cultural minorities in Thailand (Ko Kret)

February 18: Slum in Bangkok, Sathon (NGO: forOldy)

February 19: The largest slum in Bangkok, Khlong Toey (NGO: Sikkha Asia Foundation)

February 20: Group research activities in Bangkok

February 21: Thammasat University (Rangsit campus) lecture on Thai modern history and women's status, and a half-day trip to Ayutthaya with 7 undergraduate students from Thammasat University.

February 22:

  - Morning: Lecture by Ms. Akiko Sato (Liaison Officer, United Nations. Developmental Program) at the United Nations, Bangkok
  - Afternoon: Introduction to the modern political history of Thailand (Bangkok city tour)

February 23: Group activities and reviewing the field study

February 24: Flight back to Kansai Airport

#### [D] Reviews of the field study by the participating students

• The experience I gained through the Thai field study, not only from knowledge but also from feeling with my five senses, will be deeply engraved in me and will guide me when I am lost in my future life.

- Through this Thai field study, I think I was able to achieve my goal of “obtaining a new sense of value.” During the nine-day study, I experienced various “firsts” and definitely broadened my horizons. Because I was able to grow like that, I feel like it shouldn't end like this. By connecting this experience to forming one's own values in the future, the field study should become more meaningful.
- Through this field study, I was able to have a valuable experience that I would never have been able to on my own, and it gave me the strength to live.
- There is a strong relationship of trust between residents (in Bangkok's slum areas), and they have a safety net that allows them to help each other if something happens. I felt strongly that there was a need to reconsider how we interact with the local community.
- While trying to communicate on your own and playing catch-up in conversation, you will realize that international cooperation is surprisingly simple, and the most important thing is to accept the other person and try to have a conversation. It made me think that communication starts from there.
- I was able to learn about Thailand's unique culture and history.



Khlong Toey Slum (Bangkok).



Visiting a resident in Sathon Slum (Bangkok)



With Students from Thammasat University



United Nations, Bangkok